

10th Anniversary!!!



Anniversary

情報学環創立10周年を記念してニュースレターも特別企画号をお届けします。

小さかった芽は、時には悪天候の日も乗り越えて若木に育ち、四方にたくさんの葉をつけました。

そんな学環の日々の営みとその成果、そしてちょっとした横顔をご覧いただき、

学環へのご理解、ご関心を深めていただければ幸いです。

編集委員一同

情報学環・学際情報学府創立10周年記念シンポジウム開催

「智慧の環・学びの府 情報知の熱帯雨林の10年」

2000年からスタートした情報学環・学際情報学府も、今年で創設10周年を迎えました。これを記念して、来る11月12日(金)にシンポジウムを開催いたします。

長尾真氏、鷲田清一氏、濱田純一氏という、日本における知の制度設計をリードする三者が一堂に会しての鼎談のほか、学環ゆかりの方々からのメッセージを交えつつ、学環・学府の来し方行く末を描くプレゼンテーション、現役大学院生による研究室紹介のパネル展示など、盛りだくさんの内容を予定しています。

東大の全学を横断するネットワーク型組織「学環・学府」の10年のあゆみを振り返るとともに、情報知の「これから」を構想する、この貴重な機会に、ぜひご参加ください！

※当日は、Ustream中継、ツイッター連動なども予定しています。

2010年11月12日(金)

15:00—18:00

東京大学本郷キャンパス
情報学環・福武ホール

タイムテーブル

15:00~15:30 — 主催者・来賓者あいさつ

15:30~16:30 — 学環・学府プレゼンテーション
「もう10年、そしてこれから」

16:45~18:00 — 鼎談「学環的なものの未来：
情報知の21世紀を俯瞰する」

長尾 真 (国立国会図書館長)

鷲田清一 (大阪大学総長)

濱田純一 (東京大学総長 / 初代情報学環長)

最新情報・参加申し込み方法

情報学環 HP www.iii.u-tokyo.ac.jp をご覧ください。

学環・学府10周年キャラクター 「キメラ」登場！

今号のニュースレターをあちこちジャックしている、この奇妙なキャラクターは、学環・学府10周年のVI(ヴィジュアル・アイデンティティ)です。モチーフとなっているのは、ギリシャ神話に登場する怪物「キメラ」(Chimaira)。複数の生物が結びついた「つぎはぎ」モンスターです。真に新しい「情報の学」を作り出すために、異なる学問分野や多様な文化的遺伝子が混ざり合い、危うい均衡の中で、運動を続けることによってのみ輪郭を維持し、拡張していく。そんな学環・学府の「カオスな理念」からデザインされた、情報知の熱帯雨林に住む不可思議な生物です。

ところで、10周年のVIが、なぜロゴではなくキャラクターなのでしょうか？ 高度に多重化し続ける現在の情報知は、もはや伝統的な「文字的理性」(ロゴス)のみで統合できるものではなく、学環・学府の教員や学生のような人間の「個性」(キャラクター)の力、あるいはそれを世に届けるためにメディア化した「符号化文字」(キャラクター)こそが必要なのではないか!? と考えたからです。

とぼけた顔をしつつ、ちょっと不気味で不安定なこのキャラクターの活躍を、ご期待ください。



Webも生まれ 変わりました

www.iii.u-tokyo.ac.jp

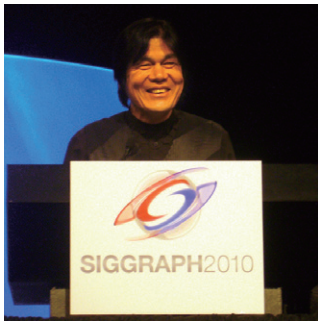
創立10周年にあわせて、学環・学府のホームページが全面リニューアルされました。コンテンツが大幅に拡充されるとともに、ページ構成やデザインも抜本的に改善され、

「学環」「学府」という有機的で複雑な組織の活動の全貌や、相互の関係が明快に把握できるようになりました。

たとえば新サイトでは、教員のプロフィールページが、授業、プロジェクト、イベントなど、関係するすべてのページと相互リンクされており、こうしたカテゴリ横断的な情報の関連付けによって、回遊的にページを読み進めて行けるようになりました。

このリニューアルは、学環内の担当チームと、学府の卒業生たちが設立した「(株)チームラボ(<http://www.team-lab.com>)」の共同で行われました。両者が綿密に連携しながら、素材やシステムを作り進めることで、複雑なコンテンツを有したホームページを効率的に表現し、安定的に管理できるようになりました。また的確でビジュアルな情報検索を実現するために、同社が独自に開発した検索エンジンを導入したのも大きな特徴となっています。

河口洋一郎教授 “Distinguished Artist Award” 受賞



授賞式でスピーチする河口教授
(SIGGRAPH2010 ロサンゼルス・
コンベンションセンター 2010年8月26日)

世界最大の米国コンピュータ・グラフィックス学会ACM SIGGRAPHにおいて、本年度の“Distinguished Artist Award for Lifetime Achievement in Digital Art”の受賞者に河口洋一郎教授が選ばれました。ACM SIGGRAPH Awardは、コンピュータ・グラフィックス(CG)界へ長年にわたり大きく貢献し、現在も活躍を続ける研究者・アーティストに与えら

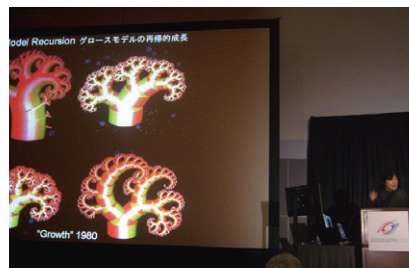
れる最も権威がある賞で、CG界のノーベル賞とも呼ばれています。デジタルアート分野の貢献者に贈られる“SIGGRAPH Distinguished Artist Award”は、2009年から贈賞がおこなわれ、河口教授は3人目の受賞者となりました。多々ある欧米候補をおさえて、日本はもとよりアジアから初の受賞者であることから、その先端芸術に関する業績の重要性と高い評価がうかがえます。

授賞式はロサンゼルスで開催されたSIGGRAPH会期中の2010年8月26日に行われ、同日の受賞記念講演では満場の観衆の喝采を浴びました。

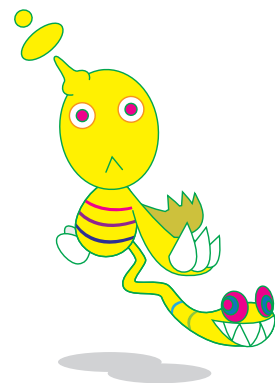
今回の受賞は、河口教授のCG界における長年にわたる独創的な業績が世界的に評価されたものです。1970年代のCG黎明期から制

作に着手し、SIGGRAPHの1982年大会における、自己増殖する「グロースモデル(The GROWTH Model)」の発表は、会場の参加者からスタンディングオベーションを受けるなど絶賛を博しました。以降、自己増殖する有機的形態と、高画質の濃密度感の創出を特徴とするCG映像作品でSIGGRAPHエレクトロニックシアター部門に連続合格し、豊かな極彩色と躍動感あふれるダイナミックな映像世界で聴衆を圧倒しました。

また、並行して高精細立体視映像の制作や、2000年からの伝統芸能との融合による「ジェモーション(Gemotion)」による情感的な舞台空間のパフォーミング・アーツの上演、近年では生命体から発想する独創的な深海／宇宙探査型のロボティック立体造形を制作するなど、その多岐にわたる旺盛な創造性とCG画像の美しさや質の高さは大きな賞賛を得るとともに今後のさらなる発展が期待されています。(特任助教・堀聖司)



【掲載情報】“SIGGRAPH Distinguished Artist Award”, Leonardo, 43(4), San Francisco: MIT Press, 2010, p.327



メディア・コンテンツ総合研究機構連続シンポジウム開催

情報学環「メディア・コンテンツ総合研究機構」の活動を公開し、知の公共性のあり様を提案すべく企画された連続シンポジウムが、7月19日、26日の2週にわたり、石田英敬学環長の司会のもとで開催された。

本機構は、デジタル・テクノロジーを共通の基盤に、クリエイション、プロデュース、アーカイブ、アナリシス、リテラシーを5つの柱とし、産・官・学を結ぶ「知のトライアングル」を展開する戦略的組織として、2009年10月に設立された。

第1回目の「映像アーカイブと認知テクノロジー」では、150人にもおよぶ放送人の証言の集積・公開を進めてきた「放送人の会」の

アーカイブ映像が取り上げられた。今野勉氏((株)テレビマンユニオン取締役、「放送人の会」代表幹事)の挨拶に続き、桜井均特任教授(NHK放送文化研究所)、三分一信之客員研究員((株)日立シス



テムアンドサービス)、阿部卓也氏(石田研究室)が、映像解析ソフト「タイム・ライン」やコンテンツ管理ソフト「知のコンシェルジュ」といった認知テクノロジーを活用することで、アーカイブ映像からどのような知を取り出せるかを検討した。



第2回目の「電子書籍の“衝撃”「コレがアレを殺す?」」では、デジタル化による変化への対応を進めてきた角川ホールディングスの角川歴彦特任教授、ジャーナリスト・作家として、電子書籍の可能性を探っている立花隆特任教授が、デジタル・テクノロジーの全面化がもたらす可能性とリスクを、地政学、産業構造、知の変容の観点から多角的に討議した。

両日とも、本機構の特徴をなす多様性や戦略を強く印象づけたシンポジウムであり、盛況のうちに幕を閉じた。(助教・西兼志)



修士課程入試合格発表

9月3日、平成23年度修士課程入試(平成23年4月入学)の最終合格者の発表があった。合格者番号が張り出される午後2時になると、炎天下にもかかわらず、掲示場所の学環本館入口付近には、数多くの人々が集まった。志願者数は昨年度並みの224名。そのうち85名(社会情報学コース:17名、文化・人間情報学コース:27名、先端表現情報学コース:31名、総合分析情報学コース:10名)の最終合格者が決定した。



アジア情報社会コース(ITASIA) 修了式

2008年10月にスタートしたアジア情報社会コース初めての修了式が9月27日に行われた。あいにく雨模様の日であったが、一期生となる7名は、福武ホールでの学際情報学府学位記授与式に笑顔で臨み、石田英敬学府長から学位記を授与された。



新世代のインターネットの誕生を目指して

「インターネットを白紙から設計し直す」新世代ネットワークの開発研究が世界各国で進められている。セキユ

リティ脆弱性や消費電力の削減、また可用性の高度化など、現在のインターネットが抱えている数多くの問題を解決するための取り組みである。

その一環として、インターネットを「まるごと」仮想化し、新しく提案される複数のネットワークを同時に収容する「進化するネットワーク仮想化」の共同研究を、東大(リーダー:中尾彰宏准教授)とNICT、NTT、NEC、日立、富士通が共同研究で進めている。実現すれば、新発明のネットワークを複数同時に実行可能な新しいインターネットが誕生する。例えば、流れるデータを圧縮ストラフィック量を激減させるネットワークなど様々な新しい機能を持つネットワークを複数収容し必要に応じて「切り売り」することができる。中尾准教授は、7月に米国のGENI国際会議にて招待基調講演を行い本研究の先進性を世界に向けて発信した。



ネットワーク仮想化のインフラを支えるネットワークノード(ルータの進化形)

報告書『大学アーカイブの理想』まとまる

学際情報学府の授業、文化・人間情報学基礎Ⅳ「アーカイブの世界」2009年度受講生が、授業の成果物として大学アーカイブの理想像を模索した調査と提案の報告書が完成した。旧7帝大と金沢大学を対象に大学アーカイブの名称、建物・施設、組織の位置づけ、事業、機能、権限、所蔵資料量等13項目を調査し、規程類を収集、さらに各人が大学アーカイブのあるべき姿を提案した。執筆は小川千代子講師の他、本講義の受講生8名による。

学環図書館に紙バージョンが所蔵

されているほか、報告書全文は国際資料研究所HP: www.djichiiyoko.com に掲載。

受賞報告

●IEEE COMPSAC 2010

Best Paper Award 受賞

7月19日から23日まで開催された34th Annual IEEE Computer Software and Application Conferenceにおいて、小林真輔特任准教授、越塚登教授、坂村健教授らの共著である論文“ucR Based Interoperable Spatial Information Model for Realizing Ubiquitous Spatial Infrastructure”が Best paper award を受賞した。IEEE COMPSAC はIEEE Computer Society の主要な会議の一つであり、コンピューターソフトウェアの分野において著名な国際会議である。

この論文は、様々な規格との相互運用性を考慮した空間情報モデルの提案を行った論文であり、また、空間を表す識別子(建物名や住所など)が同じ場所を示す場合でも様々な表現が想定されるが、提案モデルを用いることで多様な識別子を用いて場所の検索などを行うことができる手法を示したことが評価された。

●情報メディア学会論文賞受賞

大井奈美(西垣研・D2)の論文が、情報メディア学会論文賞を受賞し、7月3日に東京大学でおこなわれた研究大会にて表彰された。本賞は、情報メディア研究分野において、学術研究の発展への寄与が大きいと認められる原著論文に授与されるものである。「結社・協会・メディアが俳句創作と解釈に及ぼす影響の基礎情報学的分析」と題された当該論文は、2009年『情報メディア研究』8巻に掲載された。

●日本出版学会奨励賞および

日本マス・コミュニケーション学会優秀論文賞受賞

柴野京子(吉見研・D4)は、著書『書棚と平台——出版流通というメディア』

(弘文堂)で第31回日本出版学会奨励賞を、研究論文『書棚と平台——近代日本における購書空間の形成』(『マス・コミュニケーション研究』73号所収)で第4回日本マス・コミュニケーション学会優秀論文賞を受賞し、それぞれ本年4月、7月の学会総会席上で表彰された。先行研究の少ない出版流通の分野で、意欲的な分析を提示したことが評価の対象となった。

人事異動

教員

配置換(転入) 7/1
上條 俊介 准教授(生産技術研究所から)

配置換(転出) 7/1
佐藤 洋一 准教授(生産技術研究所へ)

職員

出向復帰(転入) 7/1
大坪 一郎 会計係専門職員
(東京国立博物館経理課から)

昇任(転入) 7/1
児玉 涼子 学務係主任(本学学務課から)

配置換(転出) 7/1
土井 平安子 学務係主任
(法学部公共政策大学院係へ)

着任教員自己紹介



上條 俊介 准教授

ITS(高度交通システム)の研究をしています。主に画像センサーを用いて、交通量計測による信号制御、事故の自動検出による交通管制の効率化、危険状況予測による安全運転支援技術の開発をしています。特に、最近では車載カメラを用いて周辺歩行者挙動を観測し、対歩行者の交通事故を防止するためのセンシング技術を開発しています。また、画像認識で培った知見をバイオデータに応用すべく、新しいアプローチのたんばく質工学を試みています。研究分野の特徴から、交通工学、交通政策、人間工学、バイオエンジニアリング等の異分野の方と接する機会が多く、交流を楽しみながら研究しています。よろしくお願ひ致します。

Book

『情報法の構造 —情報の自由・規制・保護—』

山口いづ子 著 / 東京大学出版会



インターネットやユビキタス化に象徴される情報通信技術の発達に伴い、情報の自由・規制・保護のあり方が改めて問われている。本書は、情報と法をめぐる諸課題の解決において考慮されるべき基礎的な価値原理や、拮抗する諸価値間の微妙な調整を図るための概念と論理技術を探求し、その法構造を見出そうとする試み。

『自分と未来のつくり方 —情報産業社会を生きる—』

石田英敬 著 / 岩波ジュニア新書



麻布学園で中高生に向けて行われた講義をもとに書き下された本書では、ミハエル・エンデの『モモ』の「時間どろぼう」の挿話を下敷きに、「時間」という観点から、メディア化、テクノロジー化を進める資本主義の核心が論じられ、現在を考え、生き抜くための概念として「情報のエコロジー」が提唱される。

『文化人とは何か』

南後由和+加島卓編 / 東京書籍

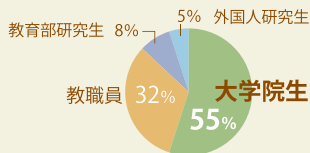


誰も深く信じていないにもかかわらず、なぜかマスメディアでは流通してしまう(文化人)。それは知識人や専門家とは異なるようだが、その中身や境界線を共有しているわけでもない。本書はこうした(文化人)という形象が、どのように生じ、消費されているのかを、文学、科学、経済、お笑い、政治、デザイン、広告など、様々なジャンルの事例から書き取るうとしたもの。学環の教員、学府の大学院生も寄稿している。

学環学府の教職員、学生、研究生の皆様アンケートをお願いしました(ご回答いただいた皆様、ありがとうございました)。回答数はそれぞれ60人前後ですので学環の総意とはいえませんが、秋の夜長の酒肴としておたのしみいただければ幸いです。

学環について

Q1 まず、あなたのご所属をお選びください



Q2 学環の長所を一つ挙げてください

1位 人・研究の多様性

2位 やりたいことができる、拘束が少ない

【その他】留学生が多い/戦前からの歴史/先生方が斬新で頭脳明晰/勢いがある/何かやろうと思ったら話に乗ってくれて一緒に実現できる仲間がいること/なんかおしゃれ/いい意味で「変な人」がたくさんいるところ/24時間のcommons/おおらか/頼れる引き出し(人)がいっぱい/社会人が多くて色んな話が聞ける

Q3 今の学環に足りないものを一つ挙げてください

1位 コース(研究室)間の連携や交流

2位 知名度

3位 歴史

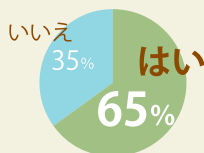
【その他】研究室横断の研究プロジェクト/おちつき/バランス感覚/教職員(事務)と大学院生や研究生との交流/奨学金/イマイチ東大の「権威主義」から抜け出していない/情報伝達の仕組み/鉄の意志/海外ジャーナルへのアクセスが少ない/科学以外の共通イベント/点在する建物の交通手段=セグウェイとか/電子図書館

Q4 学環の総合的な満足度を教えてください

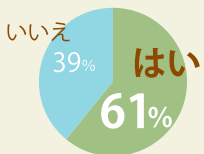
平均値 3.685185185 点(5点満点)

研究生生活について

Q1 実は、最近の情報技術の進化についてはいけない



Q2 実は、未だに人に学環のことをうまく説明できない



Q3 最も先進的な研究をしようとするのは?

1位 暦本研究室

2位 苗村研究室

3位 池内研究室

Q5 最もゼミが怖そうなのは?

1位 北田研究室

2位 池内研究室

3位 山内研究室

Q4 最もゼミが楽しそうなのは?

1位 水越研究室

2位 馬場研究室

3位 林研究室・山内研究室

Q6 最もお金を持っていそうなのは?

1位 坂村研究室

2位 山内研究室

3位 姜研究室

日常生活について

Q1 東大で一番居心地のいい場所は?

1位 コモンズ

2位 (自分の)研究室

3位 三四郎池・総合図書館

【その他】UTカフェでソフトクリーム/とん豚デジ本郷店/医学部2号館前の芝生/学環屋上/工学部2号館上層階の渡り廊下/桜の季節の医学部図書館脇庭園/電気がついていない時commons地下一階翻訳室前の廊下/保健センター/学環本館7階の調査室

Q4 コモンズにあるといいと思うものは?

1位 自動販売機(ジュース、軽食など)

2位 テレビ

3位 ソファ、ベンチ

【その他】お花/お茶出しセット/ちょっとだけ隠られる壁の窪みとベンチ/仮眠できる場所/もう十分/外部向けイベントの許可/学生の作品の展示コーナー/不必要におしゃれ感で圧倒しようとするような机と椅子/見やすい時計/毛布/掲示板

Q2 本郷でよく食事をするお店を教えてください

1位 マクドナルド

2位 メトロ

3位 中央食堂・UT café

【その他】bon art/おいしい屋/クッチーナ/た喜ち/ダーズリン/とん豚デジ本郷店/パンピ/ビッグ/プティフ/フルーツパーラー/万定/まるそ/ミュン/ムンバイ/宮本/初代けいすけ/もり川/カボ/ペリカーノ(医学部の上のイタリアン)

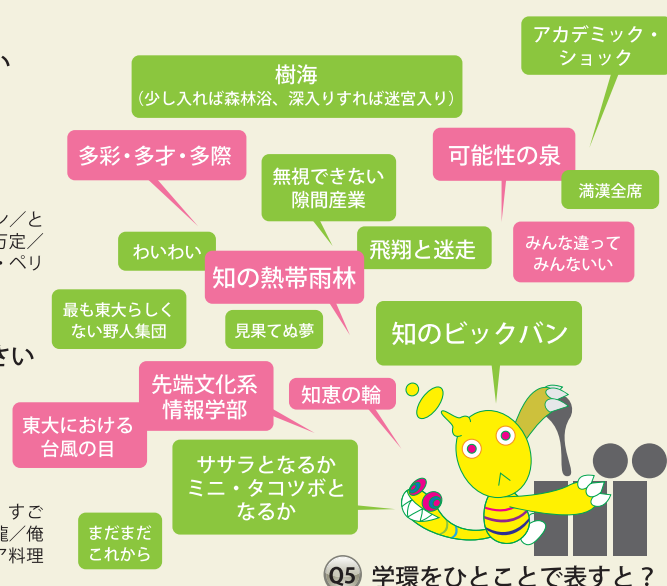
Q3 本郷周辺のオススメの飲み屋を教えてください

1位 白糸

2位 羅針盤

3位 ちどり亭

【その他】AUX DELICES DE HONGO/HANA(韓国料理と炭火焼、すごくおいしかった!)/たきち/とん豚デジ本郷店/ミュン/やき龍/俺の居酒屋三蔵/宮本/浅瀬川/陳麻屋/本三信号近くのイタリア料理店/根津の赤ちょうちん



Q5 学環をひとことで表すと?

